

31 ミナミトミヨ

(トゲウオ科)

兵庫県ランク:絶滅

Pungitius kaibarae

環境省ランク:EX

種の概要

全長5cm程度。湧水を水源とする田、芹田、小川、池沼に生息していた。繁殖盛期は3~4月で雄が抽水植物の茎に丸い巣を作り、雌を誘って産卵させ、その後雄が保護する。兵庫県加古川水系、京都府桂川水系に分布していたほか、大阪府にも分布していたとされる。生息場所の消失や水質の悪化により、1960年代までに全て絶滅した。



写真提供: 細谷 和海

県内における生息状況及びその他特記事項

兵庫県では、1960年代に絶滅した京都府より早く、1930年代に絶滅したと考えられる。かつての生息地、丹波市氷上町成松では清水地藏尊の湧水が供給された池とそれに連なる水路に生息していたと伝えられる。この地には現在、レリーフが残されている。

保護上の留意点

湧水に生息するという特殊性や、極めて限定された分布範囲から、絶滅リスクが高かったと考えられる。本種の絶滅を教訓に、他府県で現在生息するトミヨ類、陸封型イトヨ類の保全を進めることが望まれる。

県内分布

丹波市

主要な選定理由

| | | |
|-----|----|---|
| 人為性 | 激滅 | ○ |
| | 環境 | ○ |
| | 捕獲 | |
| | 遺伝 | |
| 特殊性 | 特殊 | ○ |
| | 孤立 | ○ |
| 学術性 | 極限 | ○ |
| | 限界 | ○ |
| | 希少 | ○ |



【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励